



# 2010年3月期 第2四半期決算説明会

ケンコーマヨネーズ株式会社

2009年11月19日



# 本日の内容



I. 2010年3月期 第2四半期決算の概況

II. 2010年3月期 業績予想

財務経理本部管掌 常務取締役 奥田 洋

III. 成長戦略について

代表取締役 社長 炭井 孝志

IV. 添付

参考資料【1】【2】【3】及びお問い合わせ先



# I . 2010年3月期第2四半期累計決算の概況

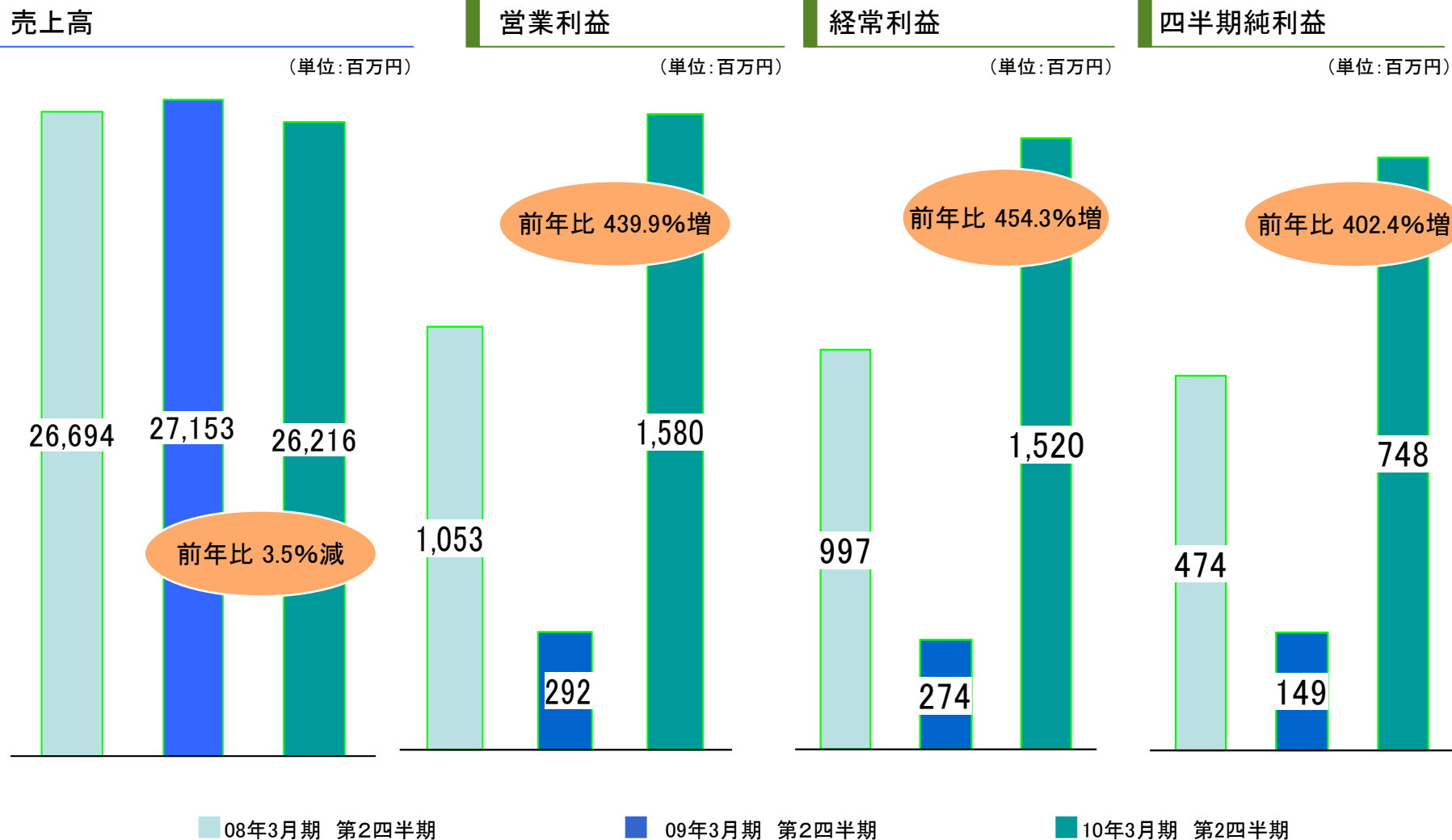


- ・ **グループコストの低減を継続実施**  
昨年度実施したC-08(コスト・チャレンジ・チェンジ)の継続  
中期経営計画KENKO Victory ROAD 2009とのリンク……効果6億円
- ・ **原材料価格の低減**  
穀物相場の安定による主原料である食物油の価格下落及び  
卵相場の安定等 原料事情の好転
- ・ **景気減退による個人消費の落ち込みと低価格志向化**  
当社取引先である 外食、量販店、コンビニエンス、パン、給食関係全体に影響  
5月価格改定(値下げ)実施
- ・ **厳しい環境ながら売上高が計画値を上回る**  
販売政策、商品政策により、販売数量減少を最小限にとどめる
- ・ **減収ながら増益**

# 決算概況(連結)①



I. 2010年3月期 第2四半期決算の概況



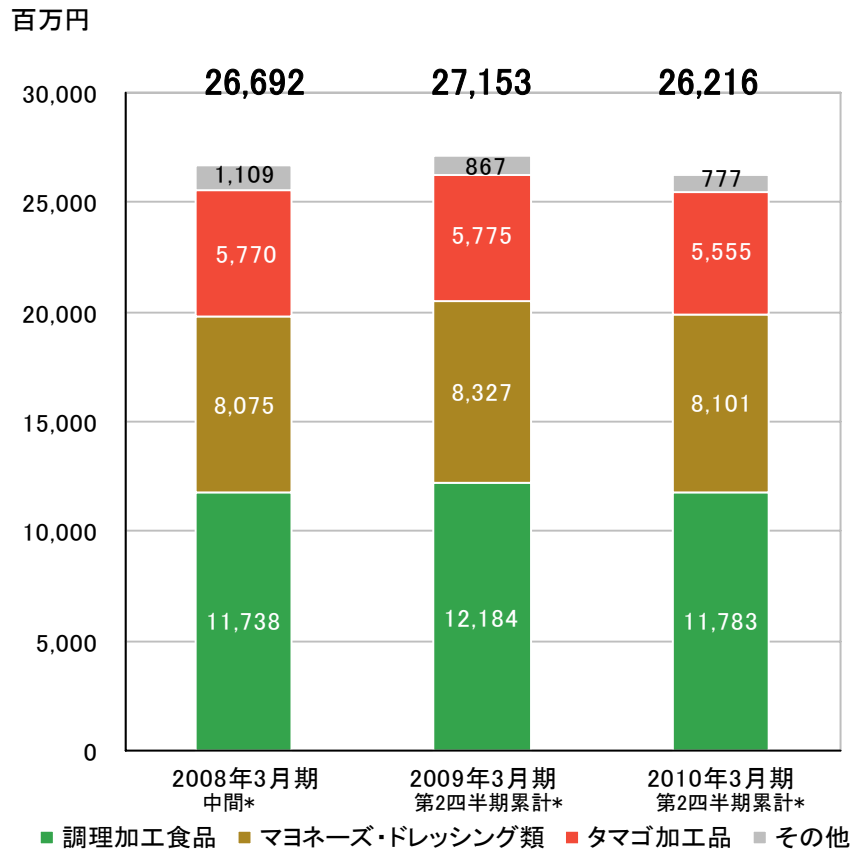
# 決算概況(連結)②-1



I. 2010年3月期 第2四半期決算の概況

■ 新機軸商品及び新商品の積極的な導入を実施し 景気減速、消費低迷の経済環境の中、減収幅を最小限に収める。

## 売上高構成



### 調理加工食品

- 売上高前期比3.3%減、数量についても6.3%減となる
- 健康志向商品ディライトサラダ(4品)の市場浸透
- 魚介類及び豆類の総菜食品が外食分野及びパン分野に浸透し継続採用
- パン分野に特化した新商品サラダシリーズ(8品)を発売 高導入率を維持

### マヨネーズ・ドレッシング類

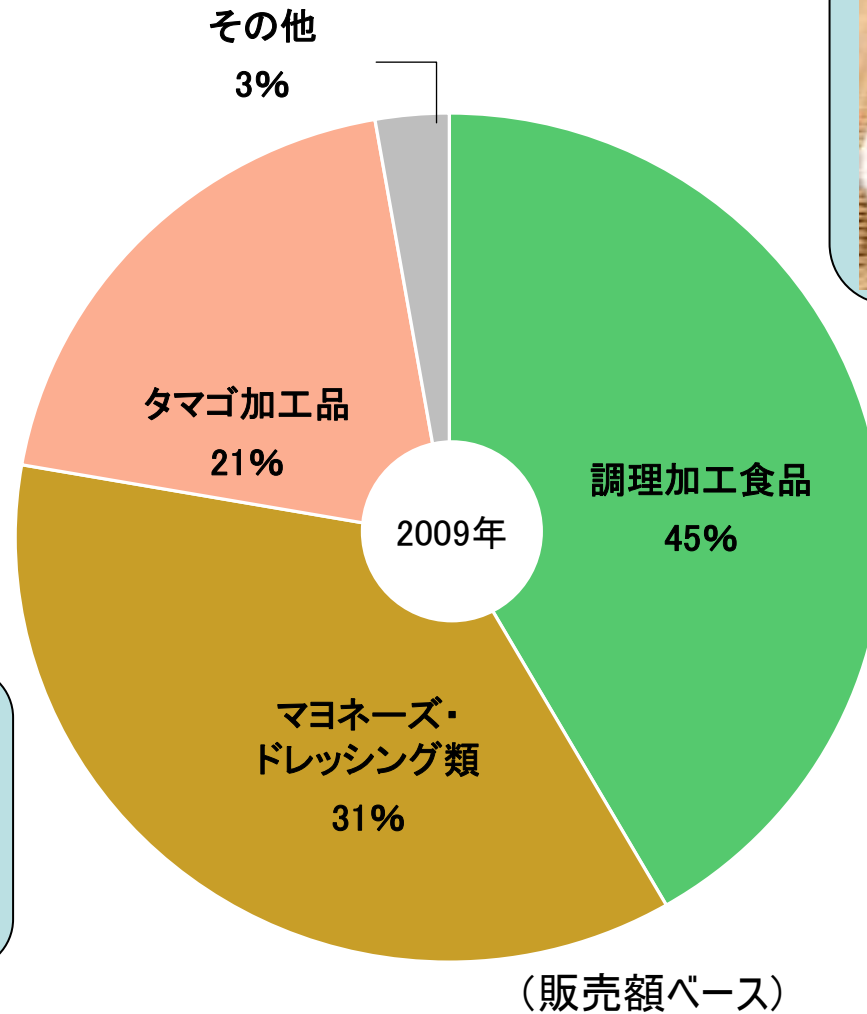
- 売上高前期比2.7%減、数量についても4.5%減となる
- 「サラダが主食」用の提案商品「OKAZU SALADドレッシング」等4品が幅広い分野で採用
- クッキングソースシリーズ(11品)強化 前年比120%
- ディライトドレッシングシリーズが好調
- 新商品低カロリーノンオイルドレッシング、こく味ドレッシング発売

### タマゴ加工品

- 売上高前期比3.8%減、数量についても6.2%減となる
- しっとり感を重視した「しっとり錦糸、オムシート、そぼろ」発売、コンビニエンスストアー他 外食分野にも採用

# 決算概況(連結) ②-2 商材別売上高構成比

I. 2010年3月期 第2四半期決算の概況

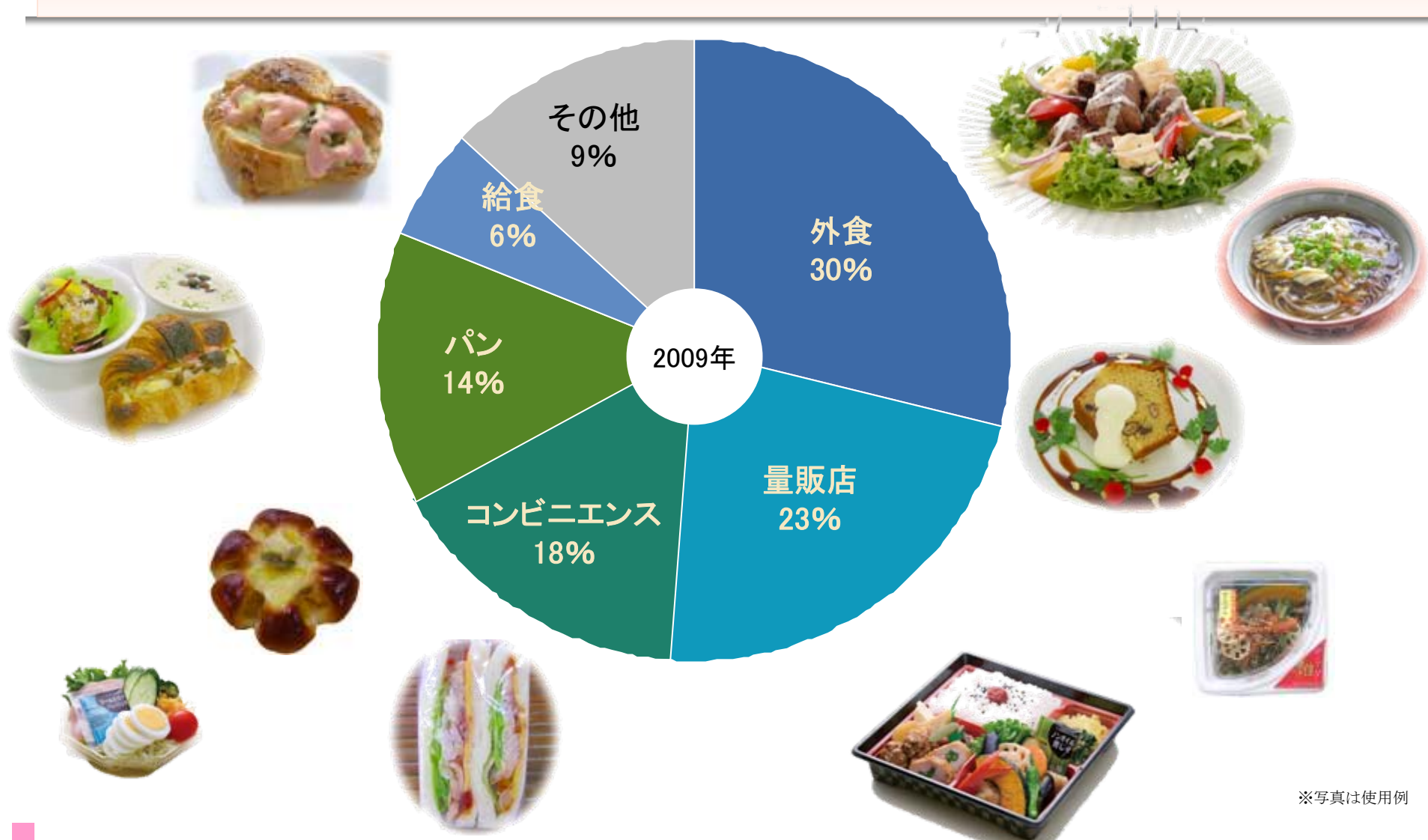


# 決算概況(連結)②-3 分野別売上高構成比

I. 2010年3月期 第2四半期決算の概況



## ■ 主要な最終顧客(販売額ベース)





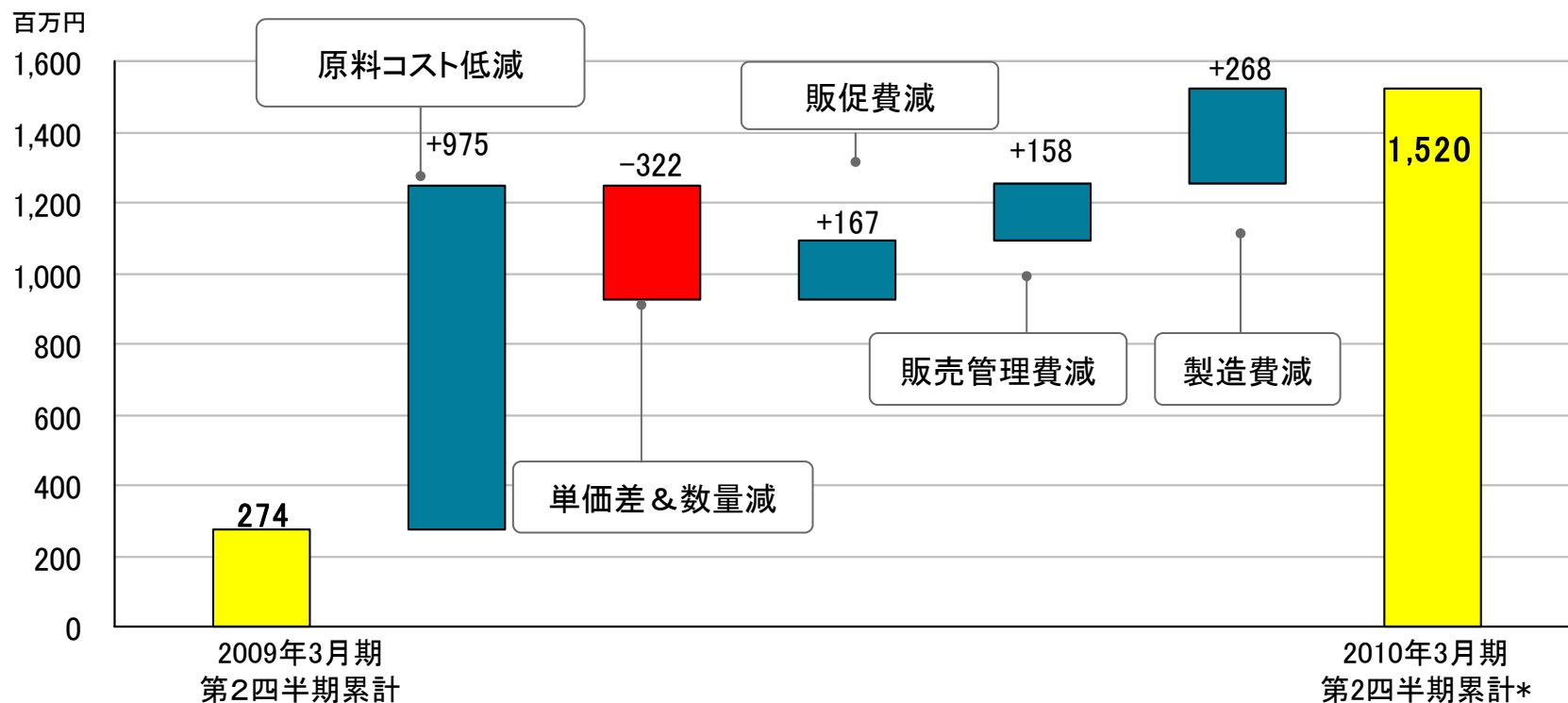
# 決算概況(連結)③(2010年3月度 第2四半期累計)



I. 2010年3月期 第2四半期決算の概況

- 経常利益は価格改定 & 数量減で減収となったものの 食用油、卵、を中心とした原料価格の低下とグループコストの削減で努力した結果、1,520百万となり、前期比1,246百万の増益となる。

## 経常利益増減



# 損益計算書の概要(連結)

I. 2010年3月期 第2四半期決算の概況



単位: 百万円・%

	2009年3月期 第2四半期累計実績			2010年3月期 第2四半期累計実績				2010年3月期 第2四半期累計 計画 (2009/8/12発表時)	
	金額	構成比	前期比	金額	構成比	前期比	計画比	金額	構成比
売上高	27,153	100.0	4.6	26,216	100.0	-3.5	2.8	25,500	100.0
売上総利益	6,104	22.5	-12.4	7,235	27.6	18.5	-	-	-
販売管理費	5,812	21.4	-1.7	5,654	21.6	-2.7	-	-	-
営業利益	292	1.0	-72.2	1,580	6.0	439.9	41.1	1,120	4.4
経常利益	274	1.0	-72.5	1,520	5.8	454.3	44.8	1,050	4.1
税金等調整前 四半期純利益	274	1.0	-66.5	1,325	5.1	383.6	-	-	-
四半期純利益	149	0.5	-68.6	748	2.9	402.4	78.1	420	1.6
1株当たり四半期純利益	11円57銭			58円12銭				-	

# 貸借対照表の概要(連結)

I. 2010年3月第2四半期決算の概況



## 財政状態

単位:百万円・%

		2009年3月期	2010年3月期 第2四半期累計	増減	前年度末比
資産	流動資産	15,889	16,708	819	5.2
	固定資産	13,648	13,621	-27	-0.2
資産合計		29,538	30,330	792	2.7
負債	うち有利子負債残高	9,209	9,093	-116	-1.3
		19,944	20,099	155	0.8
純資産	うち少数株主持分	31	10	-21	-67.8
		9,593	10,231	638	6.7
負債・純資産合計		29,538	30,330	792	2.7
一株当たり純資産		742円20銭	793円36銭	51円16銭	6.9

単位:百万円・%

## ご参考

	2009年3月期	2010年3月期 第2四半期累計
自己資本比率	32.4	33.7
NET有利子負債残高	4,178	3,660

# キャッシュフローの概要(連結)



I. 2009年3月期 第2四半期決算の概況

## キャッシュフローの状況

単位:百万円・%

	2009年3月期 第2四半期累計	2010年3月期 第2四半期累計	増減
営業活動によるCF	1,158	1,348	190
投資活動によるCF	-180	-688	-508
財務活動によるCF	-941	-253	688
現金及び現金同等物	3,611	5,433	1,822

## ご参考

単位:百万円・%

	2009年3月期 第2四半期累計*	2010年3月期 第2四半期累計*
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	15.3	16.0
債務償還年数(年)**	3.4	3.4

インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍):営業CF/利払い

債務償還年数(年):有利子負債/当期中期営業CFを2倍したもの



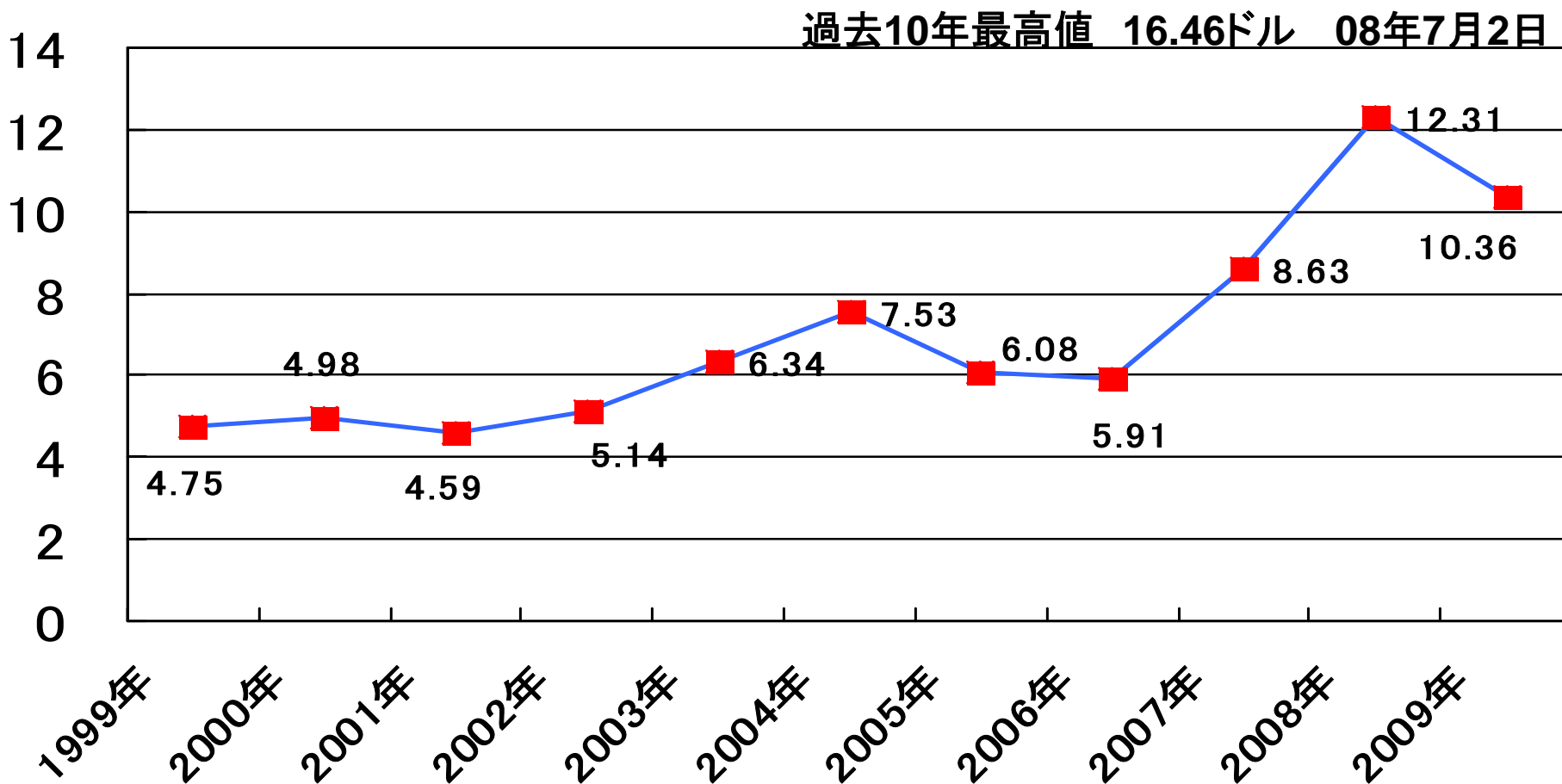
## Ⅱ . 2010年3月期業績予想

---



## 大豆相場の動向

単位：ドル/ブッシェル





### ■ 原料相場の動向

#### ● 食用油

- ・ 昨年は原料大豆相場が投機的な高騰相場(08年7月2日に16.5ドル/大豆ブッシェル)をつけたが、秋以降の世界金融不安を発端に、大豆相場も反落(安値:12月5日7.8ドル)。その後は中国の大豆輸入量の増加等により相場は11ドル-9ドルのレンジで高値安定しているが、かつての5-6ドル相場から見ると2倍近いレベルであり、今後、新興国の人口増加・景気回復によりさらなる相場上昇も考えられる。

#### ● 鶏卵

- ・ 餌の主原料であるトウモロコシも08年の高騰(08年6月7.54ドル/コーンブッシェル)から急落し(08年12月2.90ドル)だが以後 3ドル-4.5ドルの高値レンジで推移している。06年以前の2ドル台の時期から比べ飼料へのコスト影響は1.5倍になってはいるものの 生産量の鍵となる雛は目立って減っておらず 前年比99.8%となっており 今年下期、来年上期における鶏卵相場は現状と同じく低価格水準と見込まれる。

### ■ 業務用食品市場の動向

- 昨年からの景気の大減退が長期化の様相を呈しており 業務用市場でも消費の回復は期待できない。
- 当社には 外食、量販店、コンビニエンス、パン関係、給食関係、キャッシュ&キャリーなど幅広い取引先が有るが、消費減退の影響は全体に及んでおり、新規分野の開拓/新商品の積極投入など 業態別にキメ細かい対応と協業で活性化を目指す。



## KENKO Victory ROAD 2009の積極的な推進

### ◇ 販売数量の積極的な確保

- 重点分野(外食、パン、CVS、スーパー、給食)ごとのキメ細かな販売戦略の展開
- 新機軸商品(ケンコーディライトシリーズ、ポテト関連シリーズ商品)のさらなる拡販と  
新商品・新規市場・新分野の開拓
- 販促費用の効率的・集中的な投入⇒数量の確保

### ◇ 景気減速、消費減退、低価格志向に対応したコストダウン

- 工場再編による生産体制の合理化 (稲城工場・都城工場)
- 中長期計画に沿った積極的投資の実施
- 最適物流体制の更なる追求
- 環境へのこだわり 省エネ・ゼロエミッションの深化/エコフィードの商品化



# 2010年3月期業績予想(連結)

Ⅱ.2010年3月期業績予測



- 原料価格の下落に伴う販売価格の改定と、景気の減退による消費低迷のなか 数量確保に向け積極的な販促政策を進めることで 売上高経常利益率4.3%を確保する。

単位:百万円・%

	2009年3月期実績			2010年3月期予想		
	金額	構成比	前期比	金額	構成比	前期比
売上高	53,193	100.0	0.2	51,200	100.0	-3.7
売上総利益	12,295	23.1	-7.4	—	—	—
販売管理費	11,318	21.2	-3.0	—	—	—
営業利益	977	1.8	-39.2	2,300	4.5	135.4
経常利益	920	1.7	-39.8	2,200	4.3	138.9
税金等調整前 当期純利益	737	1.4	-44.3	—	—	—
当期純利益	300	0.6	-57.6	870	1.7	189.1
一株当たり 当期純利益	23.26			67.53		189.1



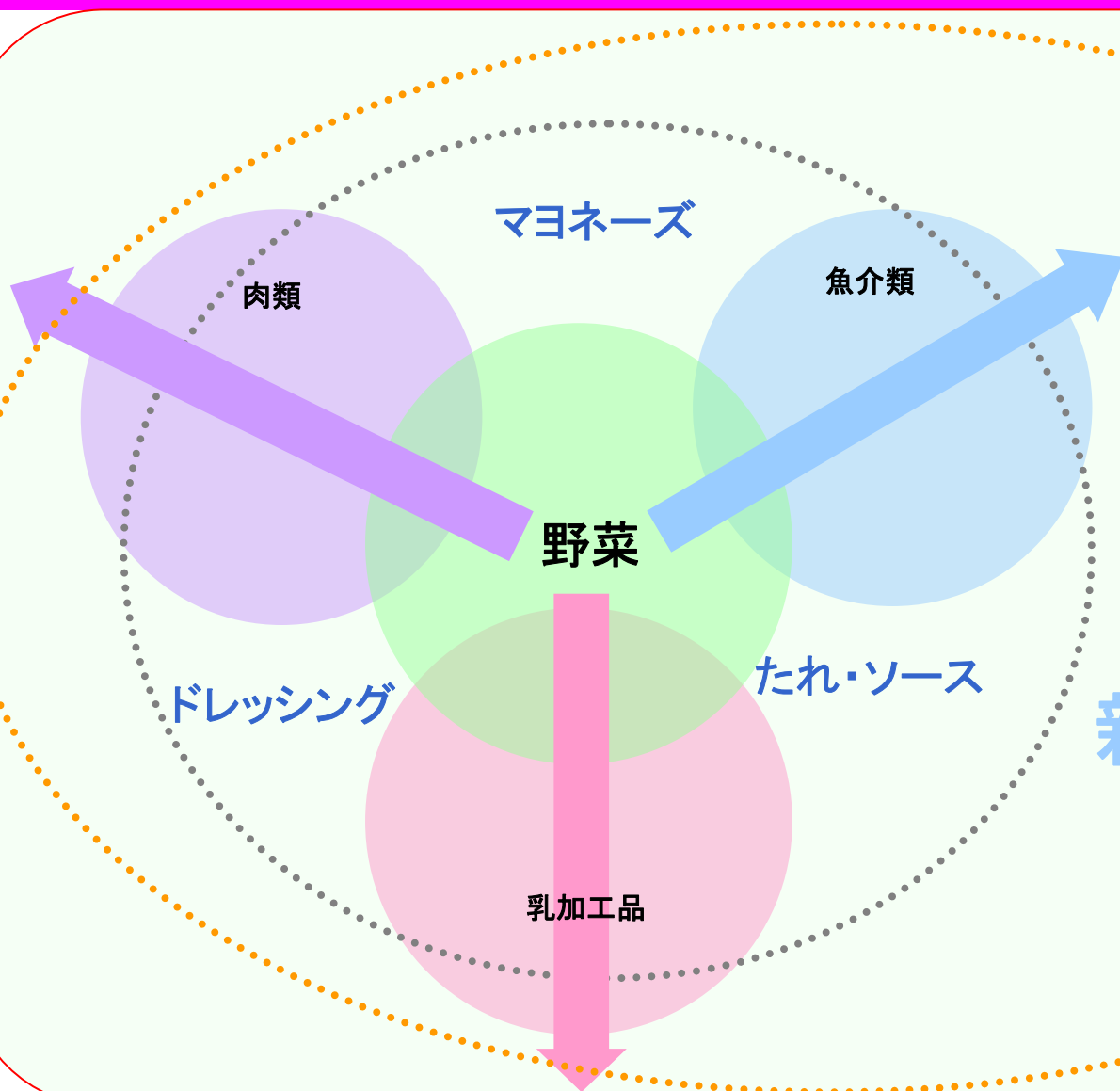
## Ⅲ. 成長戦略について

---

# サラダ No. 1 企業をめざして



# 当社が目指すサラダ領域とは



サラダとは、野菜をKEYとして魚・肉・乳加工品などの食材をマヨネーズ・ドレッシング・たれ・ソース等の調味料で仕上げた料理

食卓に並ぶ食べ物は全てサラダに通じるものとなる。

## 新しく創造された サラダ領域

# 三位一体による スピード感溢れる情報共有

Ⅲ.成長戦略



## ■ 三位一体のサービス提供

- ケンコーマヨネーズグループは、サラダに関する商品や情報・サービスを活用し、グループの活動に反映させお客様に最適な提案を目指します



KENKO FAIR 2009



KENKO FAIR 2009

### ケンコーマヨネーズ メーカー機能

- マヨネーズ・ドレッシング類、ロングライフサラダ、タマゴ加工品の製造・販売

### グループ企業 総菜機能

ダイエットクック・ダイエットエッグ

- フレッシュ総菜の製造・販売
- 主に量販店向け日配のサラダ、和総菜の製造・販売

### 情報の補完 収集 発信

### サラダカフェ ショップ・Web機能

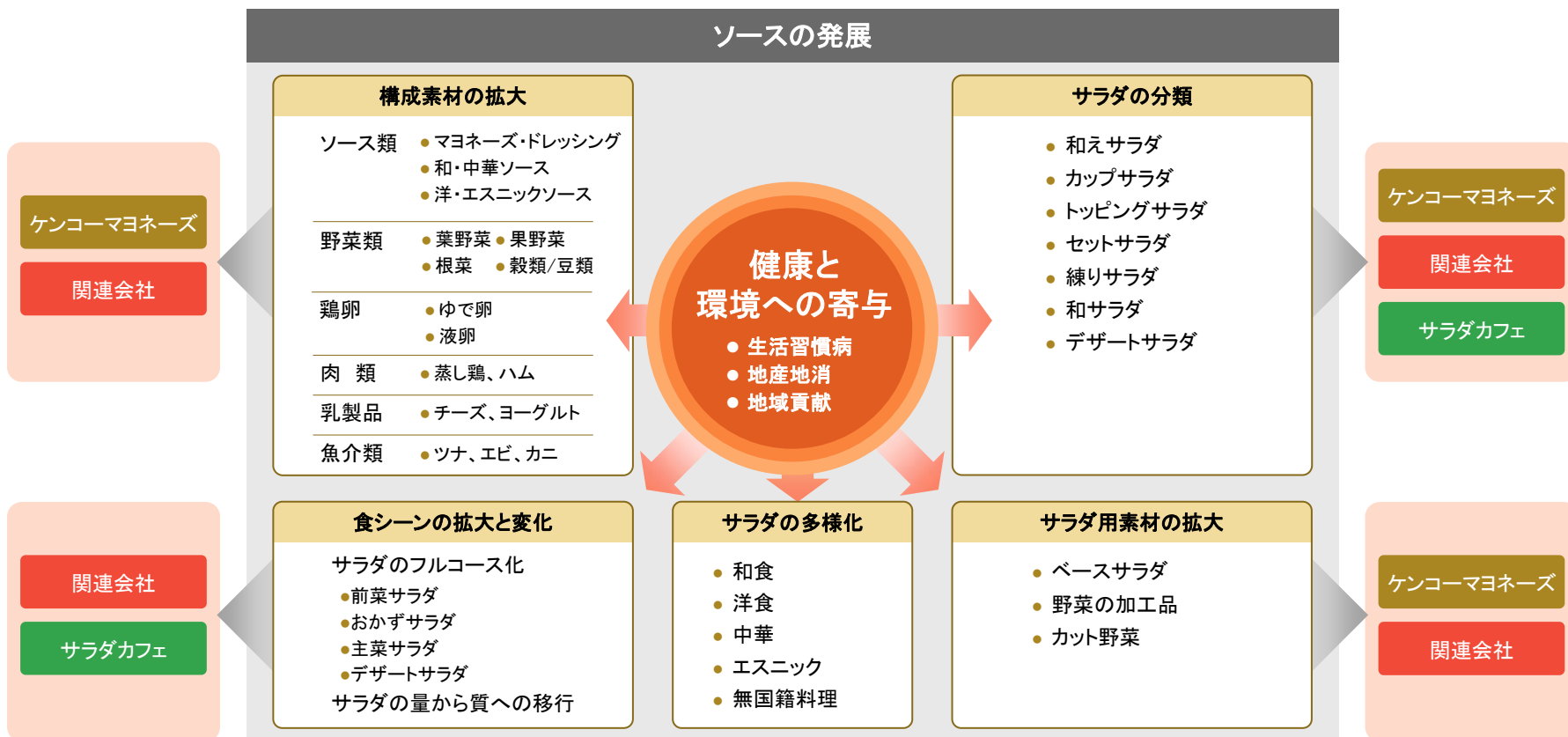
- サラダショップ(サラダカフェ、皿多屋)の運営
- Webの展開

■ サラダ事業を中心にサラダ領域を拡充する

## サラダ文化の提案



- サラダ領域の拡大
- 三位一体によるサラダ事業の推進と検証
- サラダ関連商材の育成





従来からの取り組み事項に加え新しい経営課題を盛り込む

- 従来課題

「商品の見直し」、「生産工程や拠点の見直し」、「物流改革」、  
「販売手法の見直し」

- 新しい課題

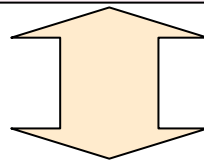
2007年2008年と続いた穀物など原料市場のグローバル化に伴う大豆油などの相場の高騰やエネルギー価格の乱高下対策

- 国内市場の少子高齢化や消費の急速な減退に直面したことで、長い将来を見据えた総合戦略を策定

- 最初の3年間の足元固め 筋肉質の体制作りをする

■ 時代の変化に対応できる筋肉質の体制作り

- ① メーカーの原点である商品開発と生産性向上への徹底的なこだわり
- ② 経営の見える化のスピードアップ
- ③ 売上高経常利益率 3%以上の確保



商品/事業体別による 6事業体チーム  
社内組織別 9本部チーム 合計15チームによる 実行チームを編成



## 時代の変化に対応できる筋肉質の体制作り

たとえば

1. 商品開発を加速
  - ・新機軸商品を投入してヘルシー志向への対応
2. 生産拠点の整備
  - ・東西二拠点体制の整備と設備更新⇒コスト削減へ
  - ・環境対応設備の導入
3. たまご事業
  - ・生産設備の増強による事業規模の拡大
4. 海外事業
  - ・中国での展開



足元を見直して成長に備える





## ① 国内市場での取り組みの進化

- 重点分野への取り組み
- 新規市場・業態への参入
- 重点得意先との協業
- 原料野菜の取り組み

## ② 海外事業への取り組み

- 中国を含むアジア地域でのサラダ化戦略の展開



# 【ご参考資料1】:会社概要

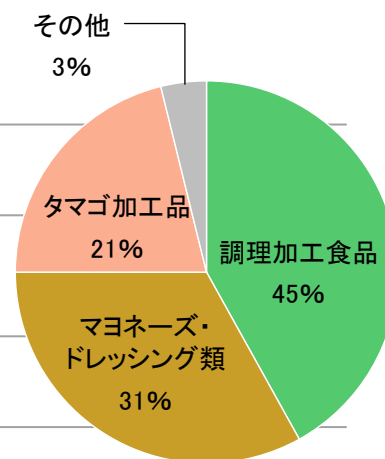


# ① 会社概要(連結)

【ご参考資料1】:会社概要



社名	ケンコーマヨネーズ株式会社 KENKO Mayonnaise Co., Ltd.
設立年月	1958年3月
本社所在地	兵庫県神戸市灘区都通3丁目3番16号 (東京本社) 東京都世田谷区上北沢5丁目42番1号
代表者	代表取締役社長 炭井 孝志
事業内容	調理加工食品、マヨネーズ・ドレッシング類、 タマゴ加工品等の食品製造販売
売上高	53,193百万円
経常利益	920百万円
売上構成比	調理加工食品45%、マヨネーズ・ドレッシング類31%、 タマゴ加工品21%、その他3%
従業員数	804名(09年09月末)



※数字は2009年3月期現在の連結データ

## ② -1 サラダカフェ事業とは・・・

【ご参考資料1】:会社概要



**コンセプト** : 「毎日なるほど納得」をテーマに、お客様に毎日の生活が楽しくなるようなサラダとサービスの数々をお届けしていきます。

### SHOP展開

1

- 消費者情報の収集と発信（グループでの情報共有 = 三位一体経営）
- 接客、サービスでNO.1を目指す
- サラダ（冷総菜）専門店と洋総菜専門店（温総菜・米飯等含む）のビジネスモデル構築

### 商品展開

2

- 食を通じて「健康に、きれいに、元気になる」商品を提供
- 野菜をキーにした、サラダ・総菜の展開
- 定番から季節商品までベーシックテイストから、ご飯のおかずになる和サラダ、おかずサラダ、地産地消など様々なカテゴリを展開

### WEBサイト展開

3

- 消費者情報の収集と発信（グループでの情報共有 = 三位一体経営）
- サラダに特化したメニューレシピの提供（約1000メニュー）
- 健康をキーにした情報発信やお客様からのレシピ投稿によるコミュニケーション
- 生活者データのアンケート実施（マーケティング調査）

2009年8月にTOPページリニューアル



## ② -2 サラダカフェShop展開

【ご参考資料1】:会社概要



### ■ 三位一体提案の実践として百貨店やショッピングモールなどに出店しています

- ・Salad Cafe 近鉄百貨店阿倍野店
- ・Salad Cafe 高島屋京都店
- ・Salad Cafe イオンモール京都ハナ店
- ・Salad Cafe 東武百貨店池袋店
- ・Salad Cafe SALA PARA 阪急百貨店うめだ本店
- ・Salad Cafe SALA PARA 千里阪急店

マヨネーズ不使用のポテトサラダ  
(おから入りポテトサラダ)



定番人気のつづくメニュー  
(ミックスフルーツサラダ)



- ・皿多屋 イトヨーカドー武蔵境店
- ・皿多屋 Ario八尾店
- ・皿多屋 Ario鳳店
- ・皿多屋 イトヨーカドー武蔵小金井店(09年3月19日グランドオープン)



● : Salad Cafe

● : 皿多屋



Salad Cafe 近鉄百貨店阿倍野店



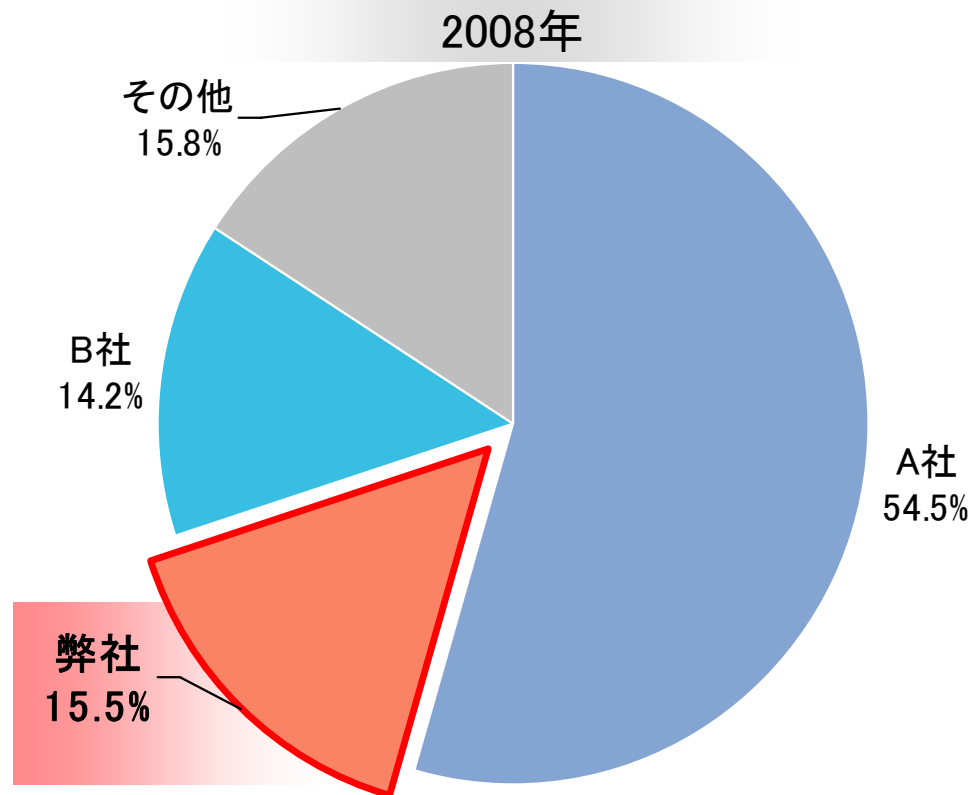
皿多屋 Ario鳳店

### ③-1 業界における当社の位置づけ

【ご参考資料1】:会社概要



#### ■ マヨネーズ・ドレッシング類業界のシェア



マヨネーズ・ドレッシング類の合計生産量はシェア2位

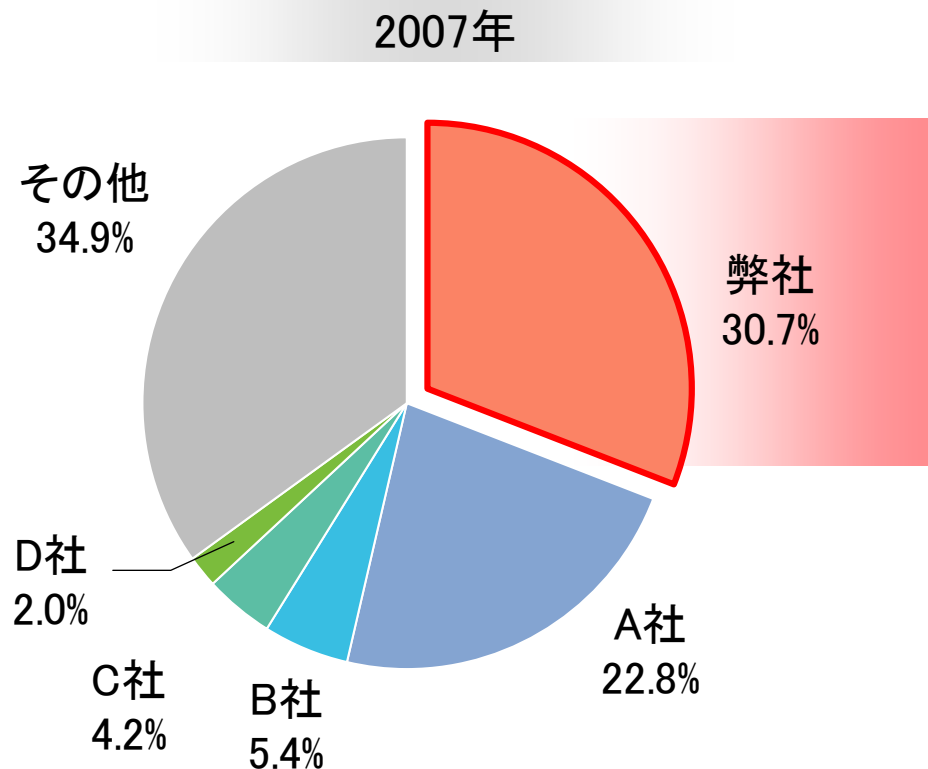
出所: 日刊経済通信社のデータより弊社作成

## ③-2 業界における当社の位置づけ

【ご参考資料1】:会社概要



### ■ ロングライフサラダのシェア



ロングライフサラダでは業界のパイオニアであり、トップシェアを維持

出所: 富士経済研究所のデータより弊社作成





# ⑤-1 当社の強み：顧客ニーズを満たすキメ細かな対応力

【ご参考資料1】：会社概要



## a. 幅広い商品ラインナップ

- 顧客ニーズに細かく応えるための幅広い商品ラインナップ
  - ・ 商品数1700以上。年間開発アイテム数は300を超える
  - ・ 幅広い食品研究の成果と蓄積が研究開発力の基盤

### 調理加工食品



ロングライフサラダ



フレッシュサラダ

### マヨネーズ・ドレッシング類



### タマゴ加工品



錦糸卵



フレッシュエッグ

## ⑤-2 当社の強み：顧客ニーズを満たすキメ細かな対応力

【ご参考資料1】：会社概要



### b. 素材へのこだわり

- シーズンに合った素材を調達し、その季節に合った調理法を提案
- 顧客ニーズに合わせた加工製品を製造

シーズンに合った美味しい  
ジャガイモを調達  
(年間ポテトリレーの提案)

- 4月～ さやか
- 9月～ 男爵
- 12～1月 きたあかり
- 2月～ シンシア



生産者履歴を管理



顧客のニーズに合わせて保  
存期間の違う3つのタイプの  
サラダを製造

- ① ロングライフサラダ
- ② フレッシュ&フレッシュ
- ③ フレッシュサラダ



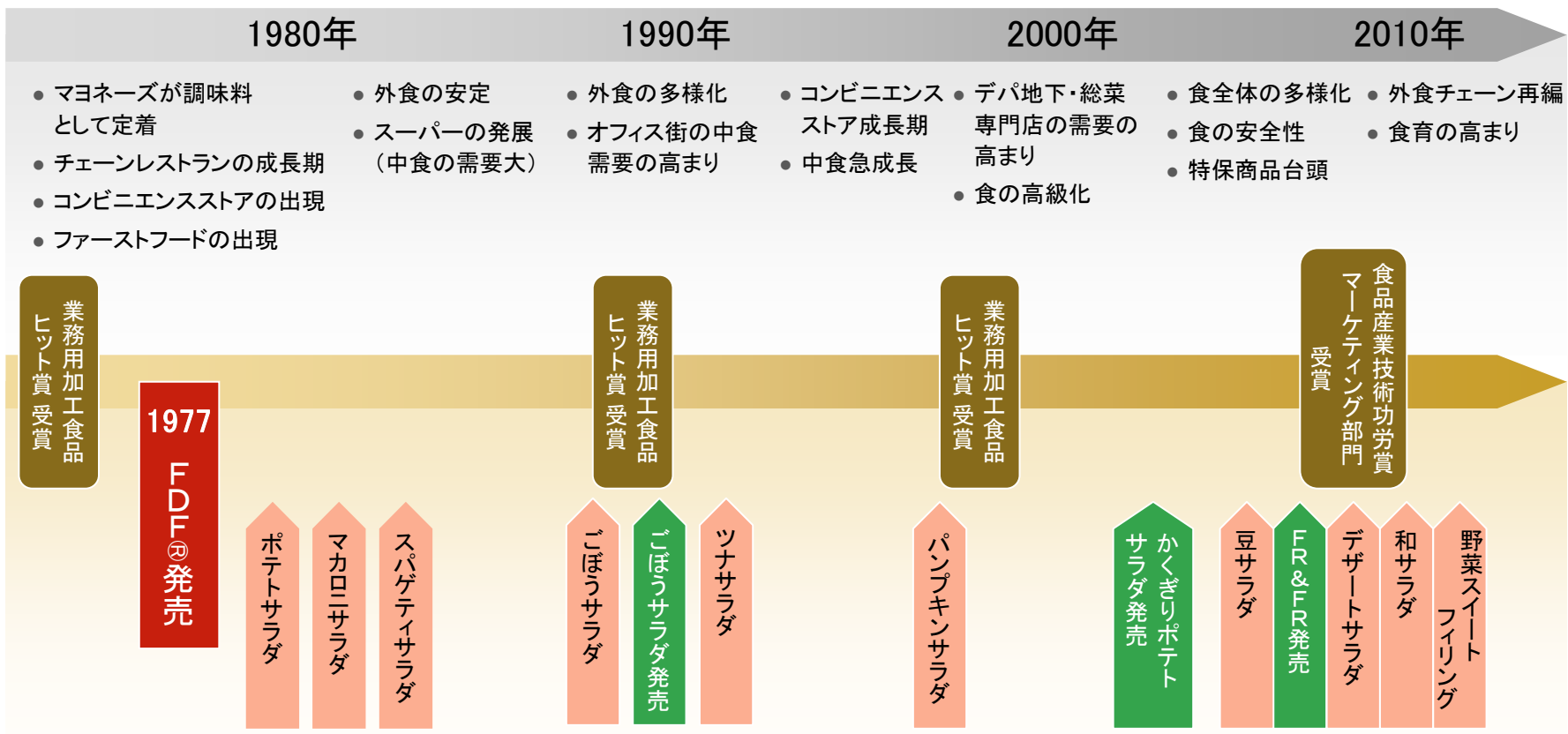
# ⑤-3 当社の強み：顧客ニーズを満たすキメ細かな対応力



【ご参考資料1】：会社概要

## c. 高付加価値製品の開発

- サラダのパイオニアとして顧客のニーズを先取りした製品を創出
- 地域との取り組みを重視した製品づくり
- 健康、環境を考慮した製品の開発



# 東京本社移転について

【ご参考資料1】:会社概要



## 新東京本社(杉並区)



住所: 〒168-0072  
東京都杉並区高井戸東3丁目8番13号  
行き方:【京王井の頭線】  
・[高井戸]駅(各停のみ停車)下車  
高井戸駅より徒歩1分  
電話:03-5962-7777



## 【ご参考資料2】: 主な指標の推移

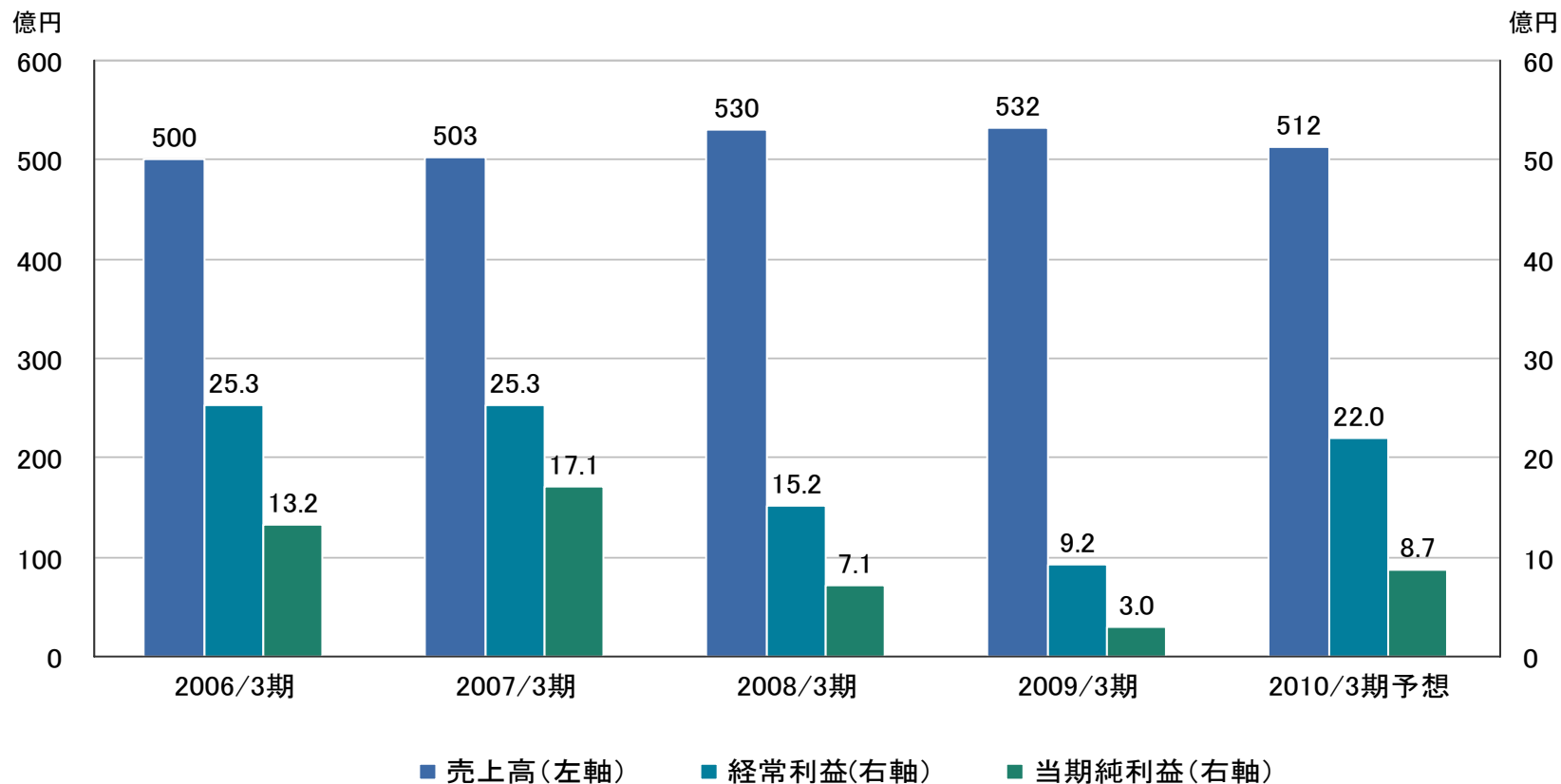
---

# ① 業績ハイライト

【ご参考資料2】: 主な指標の推移



## 連結売上高・経常利益・当期純利益の推移



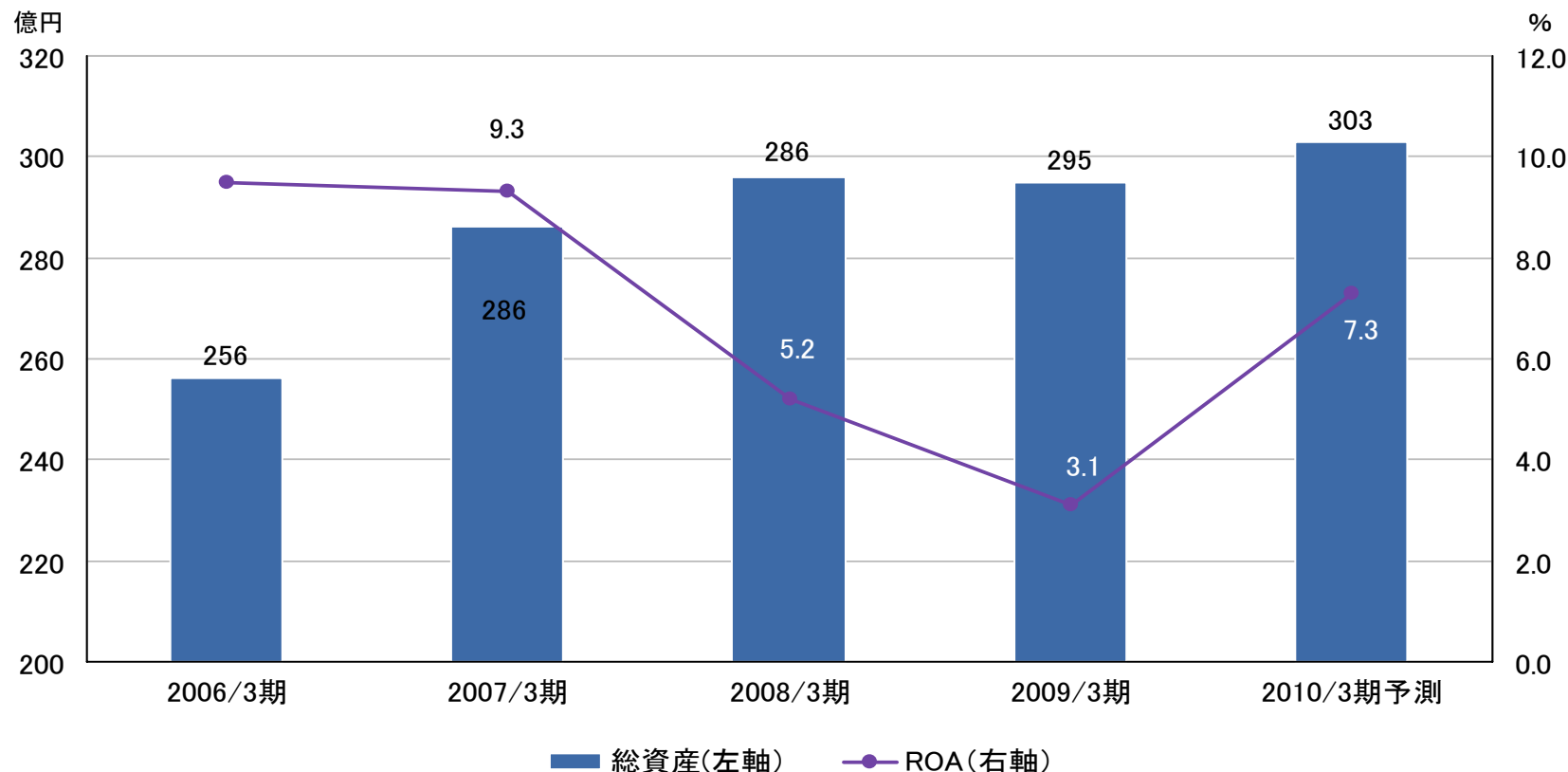
● 経常利益は穀物相場が急騰する以前の利益水準までほぼ回復

## ② 主な指標の推移 (ROA、総資産の推移)

【ご参考資料2】: 主な指標の推移



### 連結総資産経常利益率 (ROA)・総資産の推移



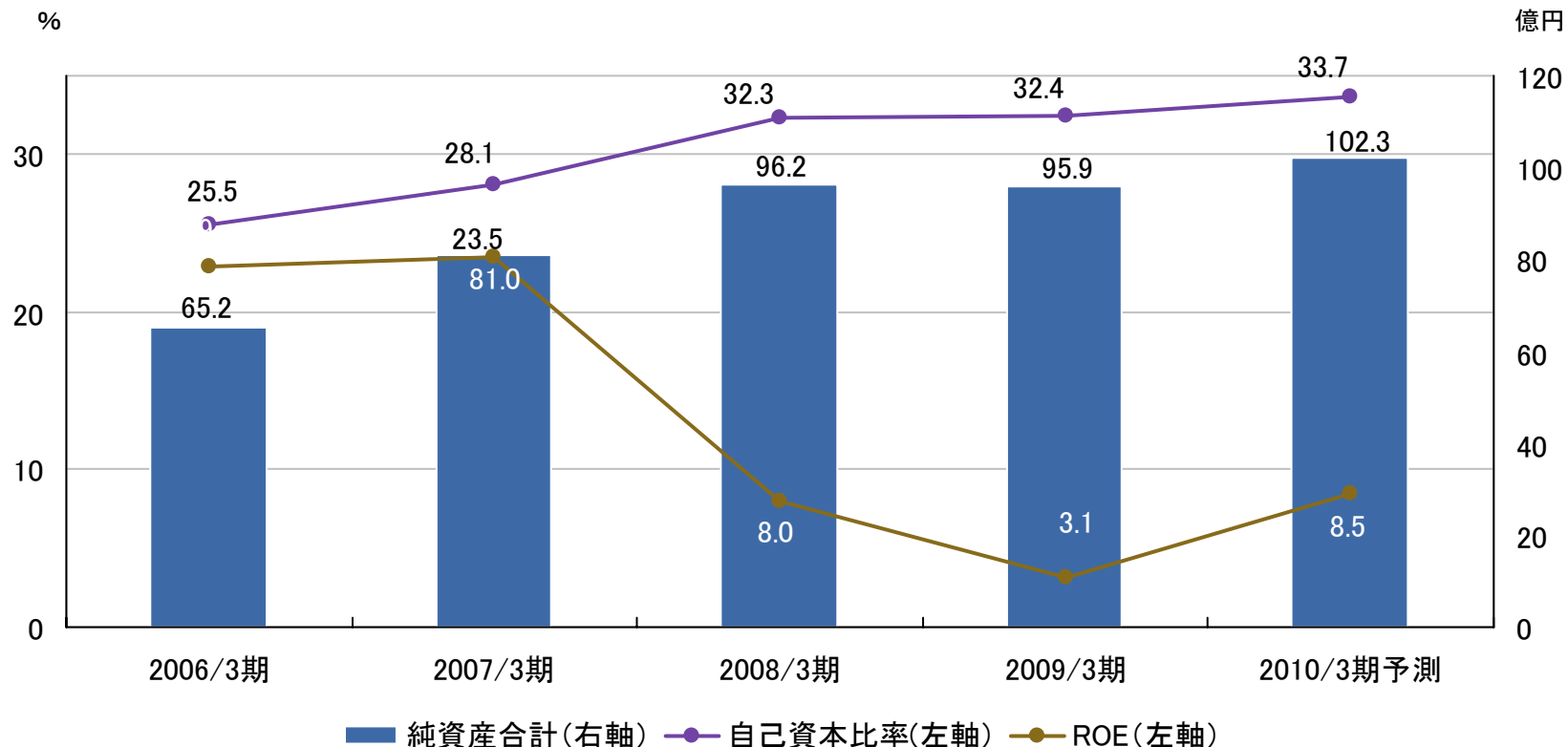
●収益力向上に伴い ROAも回復予想。引き続き資産効率性を強化

### ③ 主な指標の推移(純資産、自己資本比率、ROEの推移)

【ご参考資料2】: 主な指標の推移



#### 純資産、自己資本比率、自己資本当期純利益率の推移



- 純資産が100億円を越え 自己資本比率33.7%となり財務基盤の安定強化
- ROEも回復予想

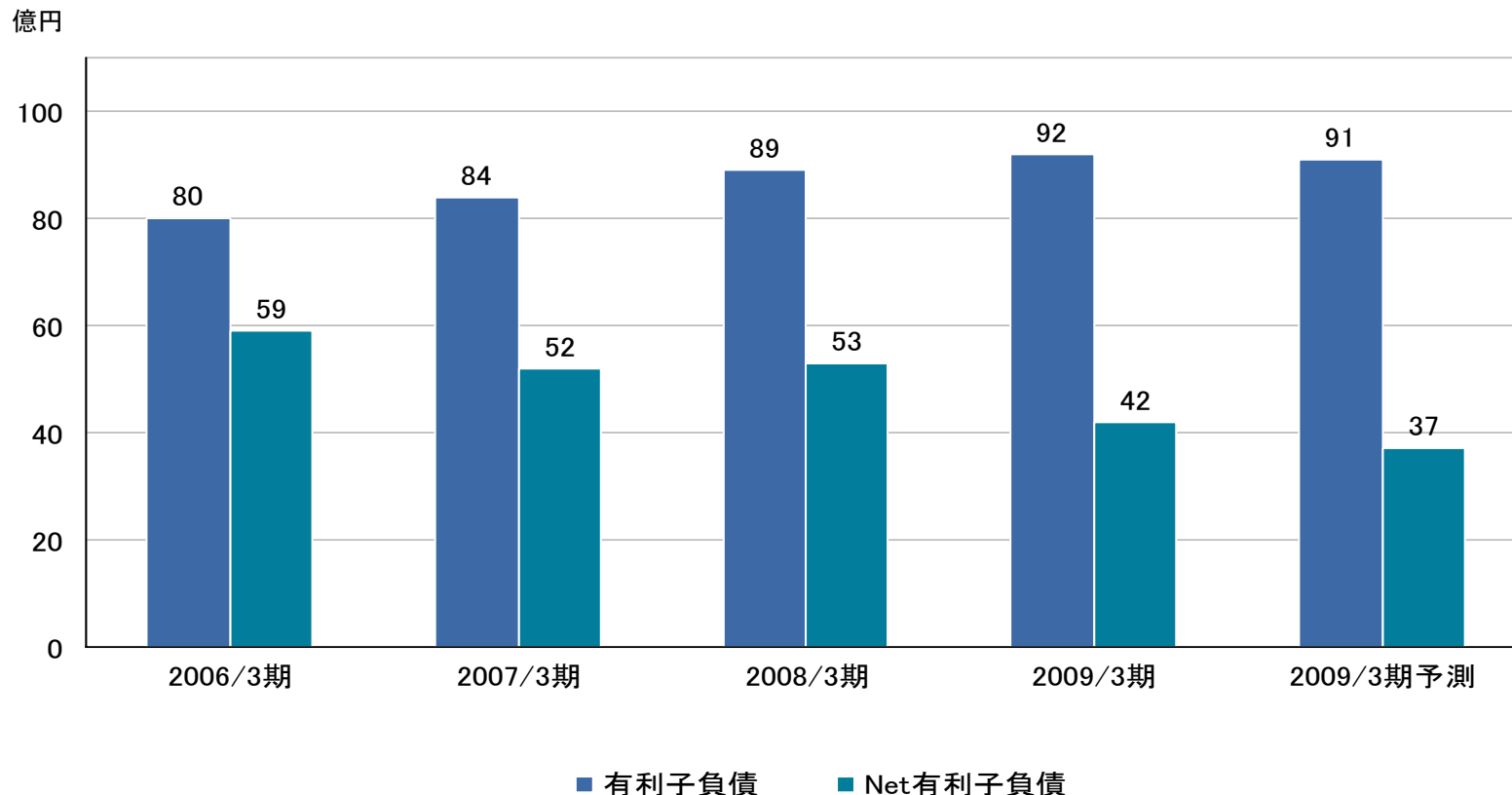


## ④ 主な指標の推移(有利子負債、Net有利子負債)

【ご参考資料2】:主な指標の推移



### 有利子負債、Net有利子負債



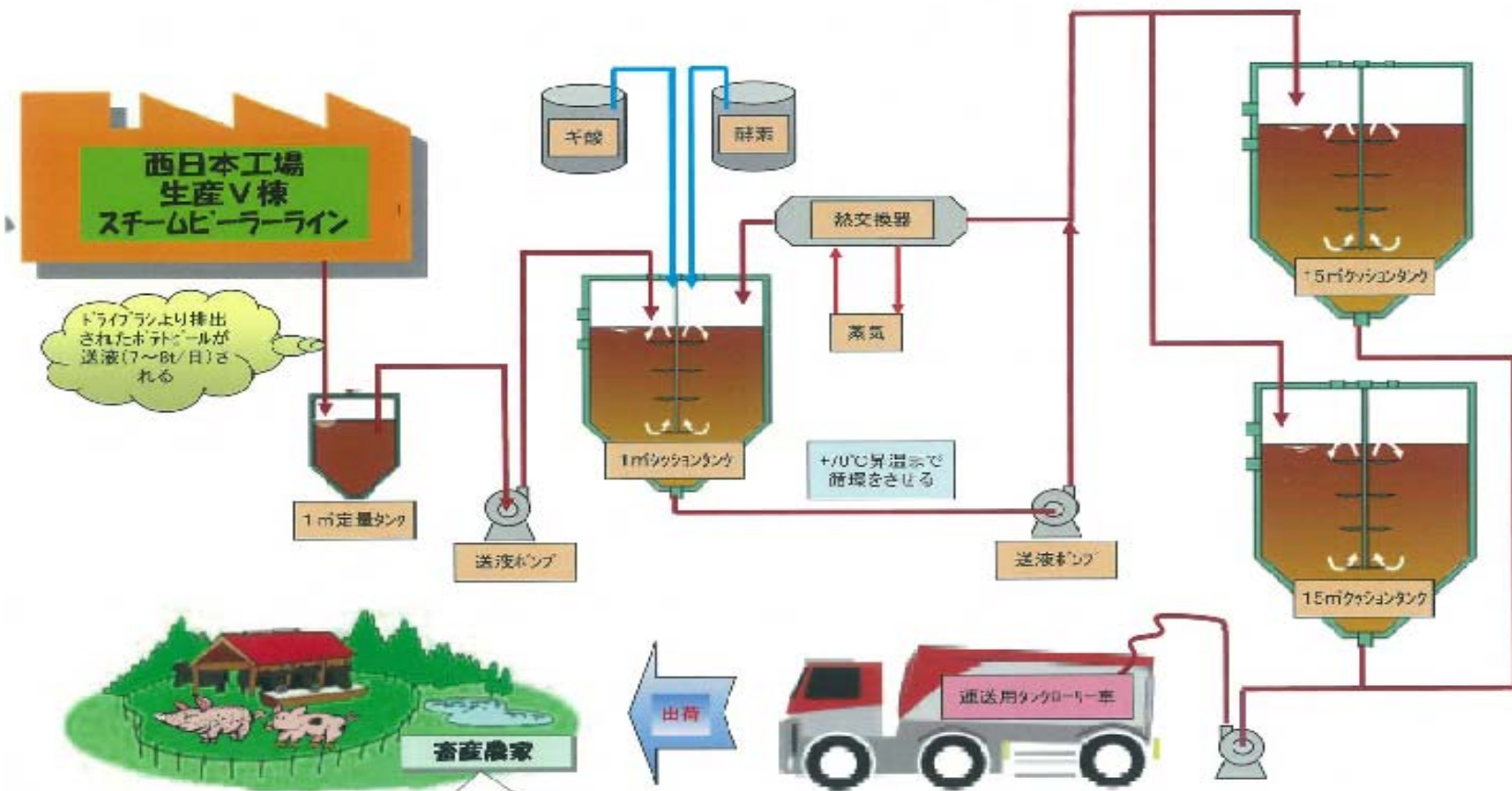
- キャッシュフローの好調を受け、NET有利子負債は漸減⇒財務体質の強化
- 国際金融不安の解消を見極めるまで、現金手許流動性は厚目にする

# エコフィードのフロー図

【ご参考資料3】: 環境への取り組み



## ポテトピールリキッド飼料化設備 概略フロー図





# お問い合わせ



- IRお問い合わせ先

- 東京本社：東京都世田谷区上北沢5丁目42番1号（'09年11月20日まで）  
**東京都杉並区高井戸東3丁目8番13号（'09年11月24日移転）**
- 担当者：社長室 本部長 沼田 安功
- E-mail：ir@kenkomayo.co.jp

- 将来見通しに関する注意事項

本資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述は、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、皆様ご自身の判断と責任においてご利用されることを前提に提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。